

離婚寸前の元ラリー経験者が、立てこもり
犯に捕まった妻子の救出をして、離婚危機
を回避する話

ラリー・ザ・石焼き芋

登場人物表

サトル (40)

雪原ラリーの、コ・ドライバーをしていた。現在石焼き芋屋。

明美 (38)

悟の妻。

たくや (5)

悟の息子。

ノリさん (59)

ベテラン石焼き芋屋さん。

犯人 A

たてこもり犯。

犯人 B

犯人 C

警官たち

特殊班たち

ドライバー

○雪原、吹雪（回想）

真っ白い世界の中をゆくラリーカー。
ペースノートを見ながら助手席のサトル（40）が叫ぶ。

サトル「L3、40！　すぐR2、キープ120！」

ドライバー「そんなの聞いてねえぞ！　今どこ走ってんだよ！」

サトル「大丈夫だ！　こっちの方がいいんだ！　リバースL1！」

ドライバー、ハンドルを切る。

雪で段差が見えず、横転する車。

ひっくり返る車内。

○石焼き芋トラックの運転席、公園前、冬

ノリ（声）「オイ…オイ！」

ハッと脂汗を浮かべ、眠りから覚めるサトル。

ノリ（59）「うなされてたぞ」

サトル「すいません。…（起き上がりながら）そろそろですか？」

ノリ「ああ。ラッシュだぞ」

サトル、車から降り、ポーと笛を鳴らし、拡声器でアナウンス。

サトル「いーしやーきーいもー」

公園前に停めた二人の焼き芋トラックに、部活帰りの高校生たちが両手を白い息で温めながら群がる。
飛ぶように売れる石焼き芋。

○石焼き芋トラックの運転席、移動中

サトル、ゆっくり運転しながら。

サトル「次は買い物帰りの主婦狙い、十八時ゼロゼロ、と行ったとこですか」

ノリ（助手席）「あんちゃんが入ってから、正確な時間に巡回するようになったなあ」

サトル「まあこれでも、一応元凄腕ラリー屋

なんで」

ノリ 「…なんで辞めたんだ？」

サトル 「事故で…。トラウマってやつですよ」

○別の公園で売る石焼き芋トラック、夕

忙しく主婦たちをさばく二人。

サトル 「(気づく)」

買い物かごを落とす明美(38)。

手をつなぎ、心配する息子たくや(5)。

明美 「…会社勤めをしてたんじゃ…ないの？」

サトル 「…ちよっと待って。…話、聞いて」

明美 「…毎朝着てった、スーツは…？」

サトル 「…」

作業用の汚いジャンパーを脱ぐと、中はスーツのまま。

明美 「どうして？ どうして言ってくれなかったの？」

サトル 「…すまん…言うタイミングがなくて…」

明美 「ずっと騙してたの？」

サトル 「…石焼き芋屋って、案外面白いんだ

よ？ 石の様子を見ながら、時間通りに町を巡るんだよ…」

明美、たくやを連れ走り去る。

サトル 「…」

○サトルの家、夜

消えた電気をつけるサトル。

テーブルの上に置き手紙。

手紙 「しばらくたくやと一緒に、実家に帰ります」

サトル 「…」

抱えた石焼き芋の袋を落とす。

○翌日、石焼き芋トラックの運転席、移動中

ノリ 「嫁さんに見られたのは、まずかった

ねえ」

サトル「…黙ってた俺が悪いんすよ」

ラジオのニュースが。

ラジオ『群馬県婦恋のロジに立てこもった犯人の続報です。犯人の人数、人質の人数は依然として不明ですが、宿泊者名簿から、少なくとも次の方たちが人質とみられます。光吉明美さん、光吉たくや君…』

サトル「えっ」

ノリ「どうした？」

サトル「…嫁さんの実家、婦恋なんです…」

○停車した運転席、住宅街

ナビのテレビでニュースを見る二人。

明美とたくやの写真が出ている。

ケータイをかけているサトル。

サトル「ダメだ…ケータイもメールも出ない」

石焼きを中止する（火を止める？）ノリ。

サトル「…何やってんですか？」

ノリ「…行かなきゃ、婦恋」

サトル「…ハイ！」

○国道X号、大雪の渋滞

だが大雪で国道が動かない。

石焼き芋トラックは、大雪渋滞に捕まっている。その運転席で。

サトル（助手席）「なんなんだよ！ この雪で全然動いてないっての？」

ノリ（運転席）「あれ、警察の特殊車両かな」

バックミラーに映る、警察特殊車両。

同じく渋滞にはまっている。「特殊部隊」の名も。

サトル、助手席で地図を見ていて気づく。

サトル「この野原と森を突っ切れば、ショートカット出来る」

ノリ「馬鹿言うない。こんな軽トラで行け

る訳ねえだろ」

サトル「雪国では、宅配便配送のトラックも、あんな感じでキャタピラ履くことがあります」

国道脇にそんなトラックが停まっている。

○同、警察車両に直談判

地図を警察に見せながら言うサトル。

サトル「このルートが早いでしょう？ この大雪だ！ この渋滞は全然動いてない！一刻も早く人質を救わなきゃ；あのロτζジでは、俺の妻と子が、人質に取られてるんです！」

警察車両のナビのニュースでも、実況中継が入っている。

責任者「：たしかに地図上では近道出来そうだが…」

サトル「俺が先導します！」

ノリ「あんちゃん、何言ってるの！」

サトル「俺、雪原専門のラリードライバーだったんです！」

○雪原へ出発、猛吹雪

石焼き芋トラック、四輪がキャタピラに換装されている。

サトル（運転席）「おやっさんは、コ・ドライブーお願いします」

ノリ（助手席）「地図見ながら、指示出しゃいいんだな？」

サトルうなづいて、エンジン始動。

○猛吹雪、雪原を行く車両たち

キャタピラ石焼き芋トラックを先頭に、警察特殊車両が雪原に行く。

○同、トラック運転席

トラックの視界は殆どゼロだ。

サトル「俺、ずっとコ・ドライバーだったんですよ」

ノリ「そうかい。そこを右だな」

サトル「：今なら分る。ドライバーは先が見えないから、コ・ドライバーを信用するしかないんだって：」

ノリ「森が切れたら、左だ」

サトル「俺、レース中に途中で勝手にコースを変えたんすよ。そっちの方が早いって一人で思って。それで計画が狂って、俺たちは崖から落ちて大怪我。即引退ですわ」

× × ×

× × ×

× × ×

× × ×

× × ×

サトル「妻にも何も言わず、俺は勝手に：」
ノリ「大丈夫だよ。俺ルート変えるほど知識ねえよ。さっき警察と確認したルート走るだけだよ」

サトル「知ってました？ ラリーって元々、『集まって協力する』って意味なんですって。引退する前に知りたかったなあ」

視界が開けてくる。

サトル「森をぬけて：」

ノリ「左だ」

そこはロッジの立てこもり現場。
マスコミや野次馬が集まっていて、警察が止めている。

○ロッジ、外

狙撃されないように窓に身を隠し、外の様子を伺う犯人A。

拡声器「いーしやーきいもおー」

と、緊張したロッジ前に、間抜けにも石焼き芋トラックが入って来る。

犯人A「なんだあ！（銃を向ける）」

サトル、トラックから降りて石焼き芋
を見せる。

サトル「差し入れですよ。人質もおなかすい
たでしょう。僕も人質になります」

犯人A「ハア？」

それを中から見た明美とたくや。

たくや「(小声で)パパだ！」

明美「(小声で)しっ！…: どういうこと？」

外では交渉が続く。

サトル「芋、何人分かりますか？」

犯人A「その手に引っかかるか！…: あるだ
け、持ってこい！」

○ロッジ内

犯人B、扉を開ける。

石焼き芋を大量に抱えたサトル。

サトル「まいどー！ちよつと冷えちゃった
んで、石焼き用に暖炉借りますね！」

サトル、あたりを見まわす。

奥に暖炉が。

犯人B、銃をつきつける。

犯人C、身体検査。

縛られている人質たち。その中に明美
とたくや。

サトル、暖炉に石焼き用の石を入れ、
新聞紙の芋とともに、暖炉にくべる。

そのとき白い石をポケットから出して
三個混ぜる。

× × ×
サトルも縄でしばられる。

犯人たちは順番に芋を食べる。

明美、サトル、小声でしゃべる。

明美「…: なんでこんな所に！」

サトル「ニュースで見たから」

明美「だからって！」

サトル「…: 焼き芋屋になるって相談しなかつ
たのは、悪かった。でも事故のトラウマで、
運送屋もタクシーも無理だった。ハンドル
握れなくてさ。石焼き芋屋なら、遅いの

幸いしたんだ」

明美 「…」

サトル 「ごめん。これからは計画をちゃんと
言うよ」

明美 「…」

サトル 「でも、言えないのがあってね…」

明美 「？」

犯人B 「そこ、うるせえぞ」

と、暖炉の三つの石が、ぱん、ぱん、
ぱんと跳ねる。

犯人B 「？」

ロッジの外に待機していた警察たち。

責任者 「犯人は三名、確定だ！ 焼き芋屋か
ら合図！」

屋根の上の特殊部隊、うなづく。

責任者 「突入！」

屋根の上からワイヤーで降り、ロッジ
の窓を破り突入する特殊部隊。

○雪原を石焼き芋トラックが帰る

運転するノリ。

助手席にはサトル、明美。サトルの膝
の上にたくや。

サトル 「焼き石を下焼きしないとき、割れて
使いもんになんないんだよ」

明美 「へえ」

サトル 「俺初日にそれやらかして、ノリさん
に怒られたなあ」

ノリ 「ははは。まさか暗号に使うなんてな」
国道沿いには普通の住宅街。

サトル 「ついでに、この町で商売して帰りま
すか。まだ余ってたでしょ」

たくや 「パパ！ 俺、やってみたい！」
と、拡声器のマイクを見る。

サトル 「ははは。よし、たくや、明美も。一
緒にやろう」

明美 「え？」

サトル 「レッツ・ラリーだ」
三人、マイクに向かって。

三人

「いーしやーきいーもー！
ポーと笛がなる。」